



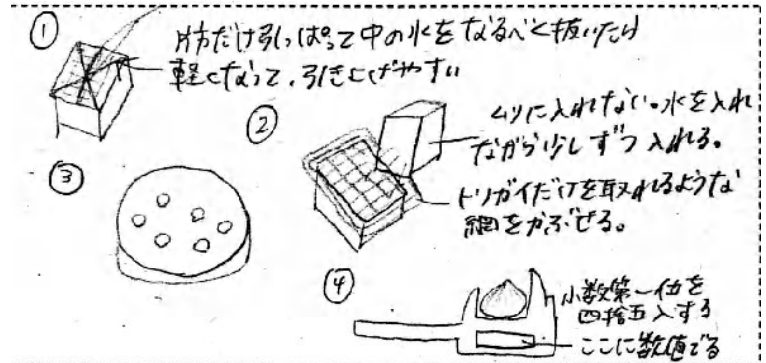
学力向上フロンティア事業 海洋センターとの研究交流

<3年海洋科学科 トリガイ調査>

「ことばの力」トライアル

<栗谷 祐輝>

今回は海洋センターの筏で、トリガイの大量死の原因やトリガイの最善の飼育方法を教えていただきました。海洋高校でのトリガイ育成に活かせる内容を多く学ぶことができました。また、海洋センターではハマグリやミルクイなどの阿蘇海に生息している、汽水域でも生き抜くことができる二枚貝の研究も始まっており、本校でもそれらの二枚貝に着目していき、トリガイ、イワガキに続く、海洋科学科での取組にしたいと思いました。



清藤 薫さんのメモより

<下岡 純奈>

トリガイのコンテナを引き上げ、アンスラサイトに潜っているトリガイを見つけ、ノギスで殻長を測定し、それを記録した後、大きさ別に選別し、もう一度コンテナに入れて海水中へ垂下するという作業は、私たちも何回か実習で行ったことがあるので、だいたい同じようなものだろうと思っていました。しかし、海洋センターの職員の方々とはとても手際が良く、効率よく作業ができていました。それを見せていただくことができ、次回のトリガイ実習のときにこの手際の良さを見習いたいと思いました。

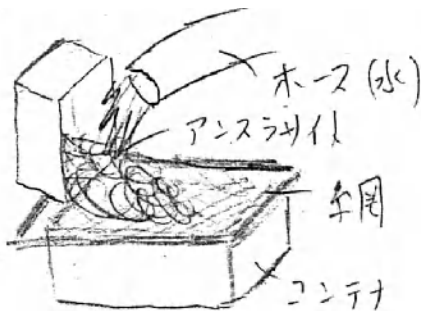
海洋センターのトリガイは私たちの育成したものより大きくて、距離的な条件はそれほど変わらないのに、なぜ大きさの違いが出てくるのか不思議で、少し悔しかったです。

<辻 健太>

今回の交流を通して、海洋センターでのトリガイ育成管理の方法を知ることができた。

本校のトリガイは大量死してしまったが、海洋センターでも今年は多く死んでいるようで、実際私たちが作業したコンテナも死んでいるものが目立っていた。

海洋センターでは少ない人数で管理していくために、コンテナを引き揚げるときやサイズを測るときに少しずつ工夫して、作業を効率化されていた。とても参考になったので、私たちの実習でも活かしていきたい。



<辻 健太くんのメモ>

<中原 大佑>

今回、この時期に海洋センターの職員の方々との交流会があり、大学進学後の研究の進め方というものが少し具体的にイメージできました。海洋センターでは、「研究」を仕事にされていて、水産業の発展のために力を注いでおられます。私の学習や研究活動を多くの課題を抱えている日本の水産業を救うものにし、幅広い人々に海や魚の素晴らしさを伝えていきたいと思います。